

ひら10 フェスティバル (通称 ひら10) part4 では“手術室ツアー”についてレポートします。レポーターは part3 に引き続き、主任部長の三女です (笑)。

「糖尿病センターの広場」のブース担当を交代した、主任部長が保護者として付き添います。実は主任部長、市立ひらかた病院の勤務13年目にして初めて手術室に足を踏み入れます。手術室ツアーは4つのお部屋に分かれて体験します。

一つ目のお部屋は、エコー検査の体験と手術道具・手術ベッドの見学です。

果物入りゼリーのエコー検査、写っているのはみかんです。



二つ目のお部屋は、ダ・ヴィンチ (内視鏡手術支援ロボット) 見学と、人型模型



を使った麻酔の体験です。呼吸と心拍をモニターで確認します。

三つ目のお部屋は、腹腔鏡手術体験です。デモ機の腹部に 1 cm 程度の小さな切開（穴）がたくさんあり、そこから鉗子（かんし）を入れて操作します。お写



真で見えないのですが、挿入した鉗子の先に（デモ機の内部に）、あめちゃん（関西人はキャンディーをあめちゃんと言います）がたくさん置いてあり、それを鉗子でつかみ取って、お隣の箱の中に移すというゲームです。この集中力！勉強もこのくらい集中してやってほしいものです（笑）。

最後のお部屋は、電気メス体験です。手術用の手袋とゴーグルを装着して、なんと！本物の鶏肉を電気メスで切り取る体験をさせていただきました。左手でコッ



フェルをしっかり押さえて電気メスで少しずつ鶏肉を切り取ります。お部屋には生肉の焼けるにおいが充満、糖尿病内科医にはご縁のないにおいに、主任部長がタジタジでした（笑）。三女は手術室の看護師さんより頂いたミッション「三角に切り取る」をやり遂げて嬉しそうでした。

手術室ツアーに参加させて頂いた保護者の一人として、このブースの準備に関わったすべてのスタッフに心より感謝の意を伝えたいです。未知の世界で実際に手を動かしての踏み込んだ体験…本当、異次元でした。他では決して味わえない貴重な体験でした。手術室ツアーに参加する前は、ちらっと手術室をお部屋の外から覗かせて貰って、絶対触っちゃいけませんよ、走っちゃいけませんよ、はい終わりです、くらいかな？って思っていました（済みません💦）。

手術室ツアーに参加した子供たちは、まさかここまでのすごい経験ができるなんて、きっと思ってもみななかったと思います。レポーター三女も終わったときには「ふう〜」と肩の力が抜けたようで（結構、緊張していたと思います）、大満足・大充実の1時間でした。

こんな世界もあるんだよ、こんなお仕事もあるんだよ、と次世代を担う子供達にしっかりメッセージが伝わったと思います。この体験を通じて、近年、志す人が減っている外科医さんを目指してくれるお子さんが一人でも出てくれば、そして将来、市立ひらかた病院を支える外科医さんの一人になってくれたりしたら、本当に嬉しい限りですね！

以上、今月はひら10フェスティバル特集でした（糖尿病センターだよりではなかったのでしょうか…笑）。